

国指定重要文化財<絵画>

けんぼんちやくしよくでんきくちよしゆきぞう
絹本著色伝菊池能運像

指定日 大正元年9月3日

所在地 菊池市隈府 菊池神社



菊池氏嫡流^{ちやくりゅう}最後の人物である第22代能運(1480～1504年)の坐像画で、能運没後百年忌にあたる慶長8年(1603)、小山川蔭によって描かれたと伝えられている。幅39.3cm、長さ98.1cmの絹本地の著色肖像画である。

この画像は黒色の大紋に揃い鷹の羽の家紋が用いられ、両肩先から朱色の胸紐が垂れて前で結ばれ、両袖のくくりにも露紐が通っている。直垂の下にうぐいす色の着物をつけ、黒の折烏帽子を被っている。右手に扇子、腰に脇差、両足は前に組んで座っている姿は、室町時代に流行した俗形武将像の一典型である。顔形は柔和な眼、細い眉、鼻下にあらい髭を蓄えており、守護職という威厳ある風格を感じさせない庶民的な親しみさえ感じさせる。この画像にはそんな不思議な魅力があり、当時の風俗資料として貴重な画像である。